

# 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」

資料3

（平成28年度「北九州市次世代育成行動計画」点検・評価）

## I 平成28年度評価一覧表

政策	施策番号	施策名	総合評価 (A~D)
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1)	母子保健	<b>B</b>
	(2)	母子医療	<b>A</b>
	(3)	子育ての悩みや不安	<b>C</b>
	(4)	家庭の教育力の向上	<b>B</b>
	(5)	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	<b>B</b>
	(6)	安全・安心なまちづくり	<b>B</b>
2 子どもの育ちを支える幼児期の学校教育や保育の提供	(7)	幼児期の学校教育や保育の提供	<b>B</b>
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(8)	放課後児童クラブ	<b>B</b>
	(9)	青少年の健全育成	<b>B</b>
	(10)	子ども・若者の自立や立ち直りの支援	<b>A</b>
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11)	社会的養護が必要な子どもへの支援	<b>A</b>
	(12)	ひとり親家庭等への支援	<b>B</b>
	(13)	児童虐待への対応	<b>A</b>
	(14)	障害のある子どもへの支援	<b>A</b>

＜参考：点検・評価のための市民アンケートの調査等について＞

### 1 基礎的調査

#### ①無作為抽出によるアンケート調査

	配布数	回収数	回収率
未就学児の保護者	1,200 通	517 通	43.1%
小学生の保護者	1,200 通	524 通	43.7%
中高生の保護者	1,200 通	409 通	34.1%
18歳～39歳男女	1,450 通	317 通	21.9%
計	5,050 通	1,767 通	35.0%

#### ②施設を通じたアンケート調査

	配布数	回収数	回収率
幼稚園児の保護者	413 通	377 通	91.3%
保育園児の保護者	368 通	328 通	89.1%
計	781 通	705 通	90.3%

※H27 年度無作為抽出回収率 37.0%

施設経由回収率 97.1%

### 2 補足的調査

①親子ふれあいルームを介した就学前児童保護者の意見（ヒアリング調査）

⇒親子ふれあいルーム利用者へのヒアリング調査を実施（6月29日）

②放課後児童クラブを介した小学生の意見（アンケート調査）

⇒放課後児童クラブ利用者（175名）に実施（6月1日～9日）

③未就学児の代弁者である保育士及び幼稚園教諭の意見（ヒアリング調査）

⇒保育士（6月21日）及び幼稚園教諭（6月28日）へのヒアリングを実施

## II 評価方法について

各評価については、概ね以下の評価基準とする。

### 《活動の評価》

評価区分		評価基準
1	大変順調	・実績値が前年度に比べ <u>10ポイント以上（相当）上昇した事業</u> ・達成率が <u>100%以上（相当）を推移（上位を推移）</u> している事業 ・ほぼ、 <u>目標に達している事業</u>
2	順調	・実績値が前年度に比べ <u>10ポイント未満（相当）上昇した事業</u> ・達成率が <u>90～100%未満（相当）</u> であり、ほぼ現状どおりの状況を推移している事業
3	やや遅れ	・前年度から改善はしているが、達成率が <u>70～90%未満（相当）</u> である事業
4	遅れ	・達成率が <u>69%以下（相当）</u> であり、前年度から改善が見受けられない事業

#### \*留意点\*

- 事業は計画中で未実施であるが、実施に向けて調整等を進めている場合は、達成率に関わらず、年度で実施すべき内容での達成状況を加味して、判断すること。
- 年度での評価区分が「やや遅れ」「遅れ」であっても、当該事務事業の性質上、適正であると判断できる場合は、その理由を「評価の理由」欄に詳しく記入すること。
- 定性的に判断する場合は、評価区分の判断となる要素について、わかりやすく「評価の理由」に記入すること。
- 特別な理由等により、評価基準（数値）は満たさないが、実際の状況は良い場合等は、その要因等をわかりやすく「評価の理由」に記入すること。

### 《成果の評価》

評価区分	評価基準
1	・前年度に比べ上位となっている。（実績値が前年度に比べ <u>10ポイント以上（相当）上昇したもの</u> ） ・概ね目標に達している。
2	・前年度に比べ上位となっている。（実績値が前年度に比べ <u>10ポイント未満（相当）上昇したもの</u> ） ・ほぼ現状どおりの状況を推移している。
3	・前年度に比べ下位となっている。（実績値が前年度に比べ <u>10ポイント未満（相当）下降したもの</u> ） ・ほぼ現状どおりの状況を推移している。
4	・前年度に比べ下位となっている。（実績値が前年度に比べ <u>10ポイント以上（相当）下降したもの</u> ）

### 《総合評価》

評価区分			成果の評価			
			1	2	3	4
活動の評価	1	95%～	A	B	C	D
	2	70～95%	B	B	C	D
	3	40～70%	C	C	C	D
	4	～40%	D	D	D	D

※評価区分の【活動の評価】は、施策の事業数のうち、事業評価が「大変順調」「順調」の合計数の割合。

A：大変良い状況にある

B：概ね良い状況にある

C：概ね良い状況とまでは言えない

D：不十分な状況にある